

令和6年度労働安全衛生講習会開催報告

総務財經委員会

関西地質調査業協会では、労働安全衛生事業の一環として「労働安全衛生講習会」と「救急・救命講習会」を隔年毎に実施しており、令和6年度は6月18日（火）に大阪科学技術センターの404会議室会場にて下記内容の「労働安全衛生講習会」を開催致しました。

1、開催日時：令和6年6月18日（火）14:00～16:40

2、開催会場：大阪科学技術センター 4階 404会議室

3、講師：近畿地方整備局 企画部 技術調査課長 直井克己 様

演題 「直轄工事における事故発生状況及び事故防止に関する留意事項について」

講師：MS&AD インターリスク総研株式会社 関西支社

リスクマネジメントグループ 中村恭将 様

演題 「ハラスメントの基本とパワハラ／指導の違い」

4、参加者数：協会員 48名

本年度の「労働安全衛生講習会」には、協会員51名が参加して、近畿地方整備局並びにMS&AD インターリスク総研(株)関係者を講師にお招きして「事故防止並びにハラスメント」について講習を実施しました。



Ph-1 司会担当 松下総務財經委員



Ph-2 満席の講習会会場風景

近畿地方整備局からは企画部の直井克己技術調査課長様による「直轄工事における事故発生状況及び事故防止に関する留意事項について」の講演を頂きました。講演内容は、1. 直轄工事における事故の発生状況、2. 安全の確保、3. 事故原因と再発防止対策について、最近の事例をまじえて詳しい説明がありました。なかでも事故防止に対する取り組みについては、労働



Ph-3 開会挨拶 大久保副理事長

災害の8割がヒューマンエラーがらみで発生している実態を説明され、うっかりミス・し忘れ、考え違い・思い込み等意図しない行為による労働災害が多いとのことで、実際に土木や建設現場で取り組まれている事例を紹介頂きました。紹介事例の中に「安全の見える化」があり、現場に潜む危険を目に見える形にすることで、事故防止対策として効果があるとのお話がありました。我々地質調査業においても危険ととなり合わせの現場が多く、日頃より安全な労働環境の構築に努める必要があることを痛感しました。

次にMS&AD インターリスク総研(株)関西支社の中村恭将様より「ハラスメントの基本とパワハラ/指導の違い」と題する講演をして頂きました。内容は、1.ハラスメントについての基礎知識、2.指導とパワハラの違いについて色々と事案をまじえて講習して頂きました。ハラスメントについては、身体的な攻撃、精神的な攻撃、人間関係からの切り離し、過大な要求、過小な要求、個の侵害があって、一昔前の感覚では、鍛えられて伸びる、これくらいでつぶれる人間は不要…との考えがあったが、現在の常識では、こうした言動は人格権の侵害、個人の尊厳の否定に繋がるのとのお話をして頂きました。我々の業界も人材不足が発生しているなかで後継者や若年層の人材発掘、確保を目指しており、ハラスメントの概念だけでなく時代とともに変化する「現在の常識」を理解する必要があることを痛感する講習会でした。

本日の講習会場はほぼ満席の参加者で埋まり、いずれの講習も真剣に聞き入る聴講者の姿が目につき、各自のスキルアップだけでなく、各社の職場に持ち帰って行う労働安全衛生活動にも役立つ有意義な講習会でした。



Ph-4 近畿地方整備局 企画部
技術調査課長 直井克己様講演



Ph-5 MS&AD インターリスク総研(株)
関西支社リスクマネジメントグループ
中村恭将様講演



Ph-6 講習会（質疑応答中）会場風景



Ph-7 閉会挨拶 奥田総務財務委員長